

令和3年度 第5回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日時

2021年(令和3年)9月30日(木) 午後6時～午後7時32分

2 場所

ウェブ開催

3 出席者

(1) 委員 11人

山岡委員長、坂井副委員長、林委員、樋口委員、阿部委員、木村委員、細沼委員、
大久保委員、島村委員、原田委員、鎌倉委員

(2) 市側 5人

福室参事、森主幹、一瀬上級主査、緒方主査、伊佐治主任

(3) 協働コーディネーター 1人

堀氏

4 議題

(1) スタート支援コース・ステップアップ支援コースの審査結果について

(2) 協働コースのマッチング状況等について

(3) 令和4年度のミライカナエル活動サポート事業について

5 配布資料

(1) 資料1 令和3年度 スタート支援コース・ステップアップ支援コース
採択事業

(2) 資料2-1 ミライカナエル活動サポート事業 協働コース令和3年度申請事業
一覧

- (3) 資料2-2 ミライカナエル活動サポート事業（協働コース）のプレゼンテーション審査（二次審査）選考方法等について
- (4) 資料2-3 ミライカナエル活動サポート事業（協働コース）評価項目及び評価のポイント
- (5) 資料2-4 ミライカナエル活動サポート事業 協働コース<令和3年度申請事業 マッチング状況及び経過>
- (6) 資料3-1 ミライカナエル活動サポート事業 令和4年度募集コース概要（案）
- (7) 資料3-2 ミライカナエル活動サポート事業 令和4年度募集審査の評価項目等（案）
- (8) 資料3-3 ミライカナエル活動サポート事業 令和4年度募集年間スケジュール（案）

6 開催概要

開会

(山岡委員長) ただいまから令和3年度第5回藤沢市民活動推進委員会を開会いたします。
初めに、委員会の成立状況のほか、傍聴者の状況などについて事務局からお願いいたします。

○事務局より、委員会成立の報告、傍聴者数、資料確認、及び委員会の公開となる旨、報告が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（1）「スタート支援・ステップアップ支援コースの審査結果について」

○事務局より、スタート支援・ステップアップ支援コースの審査結果について、説明が行われた。

(山岡委員長) 今の説明について、ご質問等はございますでしょうか。——よろしいですよ。こちらは部会の皆さんとオブザーバーの皆さんは既にご承知のことで、確認の報告ということですので。スタート支援のほうは無事スタートを切っているという報告もありまして、何よりかと思えます。

特にご質問等なければ進めていきたいと思えます。

以上で、議題1「スタート支援コース・ステップアップ支援コースの審査結果について」を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（２）「協働コースのマッチング状況等について」

○事務局より、協働コースのマッチング状況等について、説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、今の説明について、ご質問等がございますでしょうか。

1次審査で協働事業として7申請中6申請が通ったわけですがけれども、その後の調整のところでは3件の取り下げがあったということ、あと、その3件の取り下げの理由の説明がなされました。しかも、6件のうちの調整が進んでいる3件は民間同士の協働で、官と民の協働を提案されていた3件が、たまたまなのかわかりませんが、今ご説明のあった理由で取り下げになったということです。

私から質問させていただいてよろしいですか。事務局か協働コーディネーターさんかというところですが、取り下げですから団体側のほうの意思だと私は考えているんですけども、ジョージ・アンド・ショーンさんは事業を実施できるわけですから、取り下げでいいと思うんですけど、2番と3番は取り下げることによって当初申請している事業が実施できなくなるわけです。

折り合わなかったことについて、団体側としては、よく納得をして「ああ、そうだな」という形で取り下げられているのか、「これは取り下げられないよな」みたいな感じなのか。あるいは、申請して1次審査も通ったけれども今すぐに実施するのは難しいみたいなコメントもあったので、行政から突っぱねられちゃったみたいな感覚なのか。その辺のところを少し、差し支えない範囲で教えていただければと思います。

(協働コーディネーター) かながわ環境教育研究会さんにつきましては、お話を聞いていく中で、ご自分たちがこの事業を最後までやるわけではなく、そこを進めたいねという市民のグループをつくって、その方たちに最終的には事業を進めていってほしい、そのための地域協議会をつくるというような形に、話し合いの中で、最終的にはここにたどり着きたいというのが最初の提案と少し変わっていった部分があったんですね。そうしますと、今回の協働の年度内ではなかなか実施まで難しいのではないかと。

それと、事業者さんが藤沢の内容をよく知らないということがございます。例えばモデル地区をつくってやったらどうでしょうという、こちらのご提案で何かありますかと言っても、藤沢のことがよくわからないのでというお話もありました。これまでやってきたことで、まだやっていないところ、例えば今、報告の中でもお話をさせていただいた若い方をターゲットにしての本市でのモビリティの認知度を上げていくとか、マンシ

ョンにお話をさせていただいて、建物としての価値を少し上げていただくような、団体としての活動をもう少し展開をさせていただく中で、この協働をしていかないと難しいのではないかと。

これは藤沢市の高齢者支援課だけの問題ではないと思います。道路状況ですとか、それをとめておく場所の確保ですとか、市全体でこういった方向性をどう持っていくのかというところが進んでいかないといけないと思いましたが、今回はご要望の高齢者支援課ではちょっと難しい問題だったのかなと感じました。だからといって、じゃ、どこというのがなかなかございませんでしたので、今回はこのような結果になってしまったのかなと感じております。

湘南ふじさわシニアネットさんにおきましては、来年度、藤沢市の方針が出されます。今、委員会等が行われているさなかということがございまして、藤沢市の方針を見定めた上でもう一度お考え直してご提案いただくことも可能なのではないかなということで、本年度については協働を取り下げるという形になりました。

両方とも、今委員長からご心配いただいたように、藤沢市が「一緒にできないよ」という極端な形で取り下げを行ったわけではないと私は感じております。

(山岡委員長) そうであれば安心というか、申請した団体もきちんと納得をして取り下げているということであればよいかと思います。

(林委員) ことし、あるいは去年、取り下げ団体が多いというのが率直な感想です。それに対して、今後、助成金のつくりで何か改善できることがあるのかもお聞きしたいなと思うんです。こういう協働は難しいので、やってみないとわからないよというものなのか、あるいは、申請書とか説明会の段階とかでできることがあるのか、そこら辺の率直なご意見をいただければなと思いました。

(協働コーディネーター) 以前、藤沢市が協働として取り組まれていたテーマ型という形ですと、行政の方たちも自分たちが発信をしていって、思いつかないんだけど市民団体やほかの団体さんがご提案をしてくださるところと一緒にやるというのは事業への新しい思いが見えるんですが、団体さんのほうから「こんなことをやってみませんか」と言われたときには、行政の方たちのほうに戸惑いが多いのではないかなと今回感じました。

ですので、もう少し協働についての考え方も、市民自治の皆さんが一番よくわかってらっしゃるんですけど、行政の皆さん、ほかの課の方にも、「何かご協力できますか」

ではなく、協働という形で何をしていくのかということについて一度研修なりをしていただけると、より進むのではないかなと感じました。

(山岡委員長) 今のお話は多分この後の議題にもつながっていくことですので、引き続き議論できればと思います。

ほか、いかがでしょうか。ここで確認しておきたいことがあれば。

(原田委員) マッチングの際の状況をお聞きします。例えば、行政と団体が話し合いをするときは1回だけでしたっけ。そこら辺をコーディネーターの方にお伺いしたいんですけども、時間と回数とかを教えていただけないでしょうか。

(協働コーディネーター) 初回は1時間程度でやらせていただきます。まず、団体さんから出された申請書について、協働を希望する課の方に来ていただいてお話を聞かせていただく。課がまだ決まっていない団体さんにおいては、まずは私どものほうにもう少しわかりやすい形での事業についてのご説明をいただいて、それじゃ、こちらの課がよろしいんじゃないでしょうかとか、いろいろと提案をさせていただく。第1回目はそれで終わり、次は必要であれば次の課に来ていただくとか、回数を重ねて話し合いをさせていただいております。

当初は1時間という形で、市の方にも事業を抜けてきていただいておりますので、なるべくその時間内でというふうにさせていただいております。私どもと市民自治の事務局さんと団体さんはその後も少し細かいお話をさせていただいたりして、1回最低1時間半以上はお話をし、複数回それを重ねております。

(原田委員) 応募した団体から、回数が少なくてなかなか深いところまでじっくり話し合えなかったというふうに聞いたことがあるんです。今のお話だと、割と回数を重ねていらっしゃるところもあると思うんですけど、受け取る側の役所のほうが難しいという話になると、なかなか深まらないまま話が終わってしまったりしないのかなという懸念があります。そのあたりはいかがでしょうか。

(協働コーディネーター) 私どもが聞いている限りでは、例えば今回、高齢者支援課の方たちは当初から、この内容ではご一緒できないと、申請書の中をごらんになった上で、やはり安全性について大きな疑問を持っていらっしゃった。優先順位も本市が目指すものは違う。去年のペットボトルの再生事業もそうでしたが、本市の方向性と提案に出されたものの方向性は違うというのが事前にわかっておみえになる課の方たちは、そういった部分もなきにしもなかったかな。それを強い態度で断られたと感じた団体さん多い

らっしゃるかもしれません。

そのあたりを、逆に言うと、藤沢市はどちらの方向を向いているのか、自分たちはそれに沿った提案だろうかというあたりが、やはり団体さんのほうも少し理解が進んでいなかったのかな。自分たちがやっていることが正しいとか、自分たちがやっていることが正義というのは、また違うと思うんですね。その部分を私どもも気をつけてコーディネートする努力をさせていただいているつもりでおります。

(原田委員) 提出する前に役所とちょっと調整をする、どういう状況なのかを調べる時間があればいいかなと、今聞いていて思いました。

(山岡委員長) 今のところは私もいろいろ気になるところがすごくあります。時間のこともあるし、次の議題でも多分これに関連する話をしていくことになると思いますので、もしよろしければ、一旦この議題2についてはここまでとしたいと思いますが、よろしいですか。

それでは、以上で議題2「協働コースのマッチング状況等について」を終了いたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題(3)「令和4年度のミライカナエル活動サポート事業について」

○事務局より、令和4年度のミライカナエル活動サポート事業について、説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、今の説明について、ご質問やご意見をお願いします。

大きなポイントは幾つかあるんですが、協働事業で補助率を入れるということと、書類審査を申請数にかかわらず全てやるということですね。あとは、来年度ステップアップの件数が、予算上やむを得ないという理由で採択される団体数が減るということ。それから、審査基準について、資金面を含めて文言を加えることと、以前議論に出ておりました担当課との調整期間については、今回は引き続きそのままにしていきたいということですが、いかがでしょうか。

(木村委員) 資料3-1と資料3-3について、何点かご質問させていただきます。

まず、資料3-1に書かれている来年度の募集コース概要(案)を拝見して、まず書類審査の件です。共通に実施するというのは必要かなと思いましたが、よろしいんじゃないかなと思いました。これを見たんですが、落とすためというよりは、チェックをするためというところが明確にできればいいんじゃないかなと思います。私は協

働コースを担当させていただきますけれども、次がプレゼンテーションなので、能力的に難しいといった内容のものもあつたりしましたので。そういうところをチェックするという意味でも必要だと思しますので、これは数にかかわらず、やっていくというところは賛成でございます。

一方で、先ほどから、お話が出ておりました協働不成立になる事案が、昨年度、今年度と複数発生している状況をどう考えるのかというのは、皆さんと課題意識を共有できればというふうに考えております。内容によっては、今回もそうですが、単独でも難しいのかなというものはあるかもしれないんですけども、例えば協働相手を変えてとか、あるいは単独でやってみたらどうかというところを、私ども委員が評価と云ってはおこがましいんですけども、見させていただいて、一緒にそこを考えていくというの、審査の1つの意義でもあるのかなと思っております。取り下げという形ではありますけれども、審査の俎上に上がってこない、私どもとして拝見できない、対応ができないという状況になっているのは、ちょっとこのままでいいのかなというのは非常に考えるところであります。

団体の側にとっても、例えばこれで取り下げて事業ができなくなってしまうよね。そうなったときに、例えばステップアップなりスタートアップなりというところで、何か藤沢市内でやれるような機会といいますか、チャンスといいますか、そういったところを担保する必要はないのかなというところも気になっています。募集スケジュールを拝見していると、協働コースに持ち込んだ人が横滑りで、ステップアップとかに行くのはなかなか難しいのかもしれないんですが、何か工夫できないのかなというのは、第一段階として感じているところです。

今回、もう2点ほど資料3-1について申し上げたいんですが、結果的に3団体のみが2次審査に進むということになりまして、2次審査をさせていただいて、3次審査、公開ヒアリング審査会ということですが、想定している通過させる数もほぼ同じような数という中で、この2次審査と3次審査でどのようなことをやるのか。これは質問させていただきたいところです。一度で審査させていただくこともできるのかなとちょっと思いましたので、来年に向けてもそういうところがあるんですけども、ご質問させていただきます。

資料3-3であと1点、協働相手の担当のマッチングが不成立、協働交渉が不成立というところに絡むんですけども、先ほど協働コーディネーターさんからのお話で、

地域課題を把握してないように見受けられるような申請もあるということでありましたら、例えば4月の募集説明会のときに、単に段取りとかスケジュールとか、そういった方法論を説明するだけではなくて、藤沢というのはこんな課題があるんですとか、そういった行政の側からの情報提供といいますか、市の概要を説明していく中でやり取りそういったことを含ませるとか、いろんな手が考えられると思うんですね。

それをやることによって、先ほど事務局の方もおっしゃっていましたが、市役所の職員の方々の協働マインドを醸成していくというところにも、つながっていき得るんじゃないのかなと考えております。そういった大きなスケジュール変更とかしなくてもできる工夫というのは、少しご検討いただいたらいいかなと思っております。

ここまでコメントと質問をさせていただきました。長くなりましてすみませんでした。(山岡委員長) ご意見の部分はよいかと思うんですが、質問の部分を事務局のほうでお願いいたします。

(事務局) 幾つかいただきましたが、まず書類審査につきましては、書類審査を行うことで、もちろん最低ラインに届くというところは必要になってくると思いますが、皆様に見ていただいた後に2次審査、プレゼンテーション審査に進む。そのときに1次審査のフィードバックを委員の皆様からいただいているのが今で、それがあって、団体さんのプレゼンテーションが非常にブラッシュアップされていると感じますので、そういった意味で書類審査は、特に皆様に見ていただきたいと考えております。

それから、協働コースで取り下げになった団体さんについてもご懸念をいただいているところで、せっかく地域課題を解決しようと思って手を挙げていただいた団体さんなので、そこは行政と折り合えなかったということそのまま終わってしまうことがないように、フォローはしていかないといけないとは考えております。ただ、そこについて実際に今、必ず協働コーディネーターの方も入っていただいているといったところもありまして、例えばその後、まずは団体さんでやってみようというふうになるのか。そういったときに協働コーディネーターさんは、市民活動支援施設の方でもいらっしゃいますので、そういったところでご相談いただければ、もちろんフォローはさせていただける体制になっているのかなと考えております。

ステップアップ支援コースにそのまま横滑りとなると、それぞれのコースの趣旨というのがあるので、なかなかそのまま持っていくというのは難しいかもしれませんが、

少なくとも来年度の申請に向けたご相談というか、支援はさせていただけるのかなと感じております。

また、それに付随しまして資料3-3のお話で、こちらのほうに申請の段階のとき、団体さんが捉えていらっしゃる地域課題と、行政のほうで捉えている地域課題がちょっとずれてしまって、協働に至らないところがある。それに関しましても、もちろん説明会の場で、協働というのが目的や目標を両方で共有して同じ方向に向かって、それぞれ立ち位置は違うわけですけれども、手を携えてやっていこうというものになるというお話はさせていただいております。

ただ、今、実際のところ、なかなか伝わっていない部分があるかもしれないので、これについてはいま一度、行政で1つの事業に取り組む協働自体の意義、求められることについて、ご理解の上でご応募いただけるように、また両方で事業目的が共有できるように、協働相手を特に行政とする場合には、行政が今何を課題として捉えているのかといったことが申請団体さんに伝わるように、募集の段階で工夫をしたいというふうに考えております。

あと、2次審査と3次審査の違いにつきましてご質問いただいたと思いますが、3次審査は必要かなと考えております。なぜかと申しますと、まず、1次、2次、3次あるんですが、1次審査はまだ協働調整の前なので、具体的にこれをやりますとコミットするまでになり切っていないんですね。2次審査のところで、そこがしっかりと具体的になってきます。ただ、2次審査の中でまだまだ委員の方々からも、これってこういうふうになりますけどどうでしょうかとか、かなりご意見が出てきます。それは昨年度などもそうでしたので。

そこで第三者、委員の方々からのご意見も踏まえて、さらにブラッシュアップする期間、修正を加えるなり、より精査する期間といったものがあって3次審査になって、そこでさらにまた2次から3次に向けて、2次審査を経て、委員の方からいただいた意見をフィードバックすることでよりよいものになっているというのもありますので、3次審査というものは必要であろうと思います。

スタート支援コース・ステップアップ支援コースは2次までですけれども、協働コースは2年間で、補助金額も250万円ということで事業規模も大きいので、そのところはしっかりとブラッシュアップした上で採択して、実施していただきたいと考えております。

(山岡委員長) 今のご説明でよろしいですかね。ほかいかがでしょうか。

(原田委員) 3-1の資料で、今の話の継続になってしまうんですが、協働の場合の行政との協働が成立しないということに関して、ちょっと諦めの境地も感じたりしているんですけども。というのが、提案する時期、割と早い段階から行政とある程度話ができて、課題としてまとまっていった提案できればうまくいくんじゃないかと思うんですが、行政が全く何も想定していない中で提案されても、それがどんなに新鮮な発想であっても、受け入れがたいと思うのが続いているというか、常なんじゃないかなと思ってしまいますね。

そう考えると、さっき事務局がおっしゃったように、行政が何を課題として捉えているのかを伝えていくというのが1つの方法ではありますが、逆に言いますと、行政が気づかないとか、新鮮な発想は受け入れられないというのが見えてきてしまうというのが、ちょっと諦めている部分です。諦めてしまうということにしてしまうのであれば、協働を今3団体にしていますが、これを2団体にするというのも1つの手かなと思っています。ステップアップのほうが団体数を3から2ということですが、それを3もしくは4ぐらいにして、早い段階の種まきをふやしていくというのは1つのやり方ではないかと思います。意見として聞いていただければと思います。

それと、私が気になったのは14番の「申請書類」なんですけれども、ここで具体的になっているかとか、団体にとって申請しやすいフォーマットにさせていただくということでしたが、これがすごく大事だと思っていて、エントリーシートを拝見すると相当かぶった質問があって、項目を埋めるのも微妙にニュアンスを変えて書いていらっしゃる団体がすごく多いので、団体概要書であるとか、事業計画書、エントリーシートももうちょっと簡素化して、団体が出しやすいようなフォームに変えていただければと思います。

事務局はそれほど大きく変えるつもりはないのかもしれないですけども、ちょっと見直していただくと、同じような内容をあっちにもこっちにも書かれている団体も多いので、そうならないように、できれば質問はかぶらないとか、ある程度枠を持って質問の広さを広げていただいて書き込むような、そのフォーマットを変えていただければと思います。

(山岡委員長) 原田委員のおっしゃることは本当にそのとおり、私もそう思って、行政が課題として認識してないことは協働できないという話になりますので、それはまずい

わけです。そこは何とかしなきゃいけないけど、他方で、協働を諦めるということに合意するわけにはいかない。協働を諦めましょうというわけにはいかないと思うので、やっぱり何とかする方法を探っていきたい。

一つには、例えばこれではできないという提案があったときに、できないじゃなくて、どうすればできるのかみたいなことを一緒に考えていけるような関係にしていかなくちゃいけないと思うんですね。それは行政の側も、協働に対する認識や重要性の理解ということもそうだし、NPOの側も、どういうふうに戦略的に行政と組んでいったらいいかみたいなことをもう少し知恵を絞るとか、双方に必要だと思うんです。そのための場というのは、私の立場としては、残しておきたいと思うんです。でも、本当におっしゃるとおりで、そこが私は課題だと思います。

例えば今回、官民の協働が1個も通らなかったことで、結局行政との協働って、提案しても通らないよねみたいな雰囲気は市民活動の側に広まってしまったりするのが、私はすごく恐れるところです。そうじゃない体制というか、雰囲気というか、もっと言えば協働する力と言っていいのかもしれないですが、つくっていくことを考えなくちゃいけないなというふうに思います。

(原田委員) 書類審査の前というか書類を出す前に、市役所のほうの状況であるとか、こちらがこういうことを提案したらどうですかみたいなヒアリングの場を、市民自治が間に入ってつくるということはできないんですか。それをやっても無駄で難しいかなという部分もあるかもしれないですが。

(山岡委員長) 原田委員がおっしゃるのはもっともで、ただ、行政は、みんな見てないかもしれないけど、結構情報を出しているわけですね。ホームページなんかでも総合計画も含めたいろんな計画とか相当出しているわけで、民間側がちゃんと情報収集をすれば、今こういうことを行政が考えているなということを探るぐらいはできると思うんですね。結構なレベルで。

そうすると全く的外れな提案にはならなくて、公式のヒアリングをしなくても結構いい線行けると思うんですね。そういう市民活動側のアプローチというのを、もっと促していく必要もきっとあるんじゃないかとも思います。

(事務局) ご意見ありがとうございます。事務局としましても、行政との協働も含めてもちろん、協働コースに2次審査まで通っていただきたいというのがございます。取り下げという結果にならないようにしてほしいというところがあります。今年度の募集

説明会の場でも、協働コースのご説明のときに、協働コーディネーターがお二人いらっしゃいます、ぜひ事前相談をしてくださいというのは、かなりお伝えしておりました。

例えば、募集説明会にいらっしゃれなかった場合でも事前相談はしていますということで、募集案内にももちろん載せておまして、実際事前に、協働コースの行政のニーズはあるのかといったところをお尋ねいただいた団体さんも中にはございました。ただ、そういうふう事前に相談いただけなかった団体さんも少なからずあったところ。こちら申請前のご相談はすごく大切だと思うので、そのところをもっともっと促していきたいと思っております。

(坂井副委員長) 大体同じ話になっちゃうんですが、一応させていただきます。

行政との協働が生まれにくいという現実もあるんですけども、お話の出ているように、行政の優先順位と、市民目線で見たとときの課題の優先順位というのが合わない。行政の優先順位にフィットしてこないと、なかなか協働になりにくいというのが現実なんだろうと思うんです。行政の課題意識を、事前に皆さんによく知ってもらうようなこともしたいというのも大事なんですけれども、そういう枠の中でしか協働が生まれない世界になってくると、それはそれで、市民目線で把握した課題の取り組みは協働事業にならないということにもなってしまうので、その辺は考えていたほうがいいなと思うんです。ただ、行政の課題意識を出して、それについて協働するというのは、行政側の協働マインドを涵養していくステップとしては有効であろうと思います。

それから、市民協働というのは、今回提案する時点で既に協働関係が成立している、その上で提案してきているんだと思うんですね。そうすると、ここで市の資金を投じて協働を生み出す文化を育てるということに役立っているのかどうか。来年すぐに変える必要はないんだけど、将来的にはちょっと考えたほうがよろしいのではないかな。もしかしたら市民協働に対する補助金枠、要するに協働枠じゃなくて、そういうのを別枠にしちゃって、補助金対応だというふうに考えてもいいのかもしれないなとちょっと感じています。むしろ協働枠のほうは別建て予算をつけているわけなので、将来的に、行政との協働がなかなか進まないのを何とか進めていくための枠というふうに工夫していったらどうかなという気がちょっとしました。

要は、この基金の置いている意味合いをどっちにウエートを置くかなんですね。市民が自発的に課題解決の取り組みを推進するんだというところにウエートを置いて考え

るか。いや、地域課題の解決だ、それが第一なんだということだとすると、市のほうで捉えた課題がやっぱり大きな課題であるから、そっちのほうに行くんだよとなりやすいのかなと思っています。この仕組みのNPO助成という意味合いを、この協働の事業の中でどういうふうに考えていくか、そういうことも関連しているよなという気がしました。それは課題提出として申し上げておきます。

もう1点、協働コースの中で、上限枠の80%以内という枠をつけるかどうかということがご提案にあったと思うんですが、逆に質問ですが、150万とか100万円の上限を設定した上で、かつ、この80%以内というのをやったほうがいいんじゃないかということなんでしょうか。

(事務局) こちらの意味合いとしましては、あくまでも市から交付される金額の上限としては変わらない。1年目は150万円、2年目は100万円が上限です。ただ、ミライカナエル活動サポート事業、この申請事業の収支予算を見たときに、例えば150万円上限であれば、150万円が8割になっていて、残り2割が自主財源になっているということになりますので、もし150万円を取ろうとすれば、事業予算は約2割増しになるというところですよ。

(坂井副委員長) これまで協働コースに出てきたものが、実態がどうなっているのかというのがちょっとよくわからないんですが、こういうふうに具体的に数字を示して、そのほうが計画しやすいという面はあるかもしれませんが、2年間の協働事業なので、劇的に金額に枠をつけることがどうかなという気もちょっとしたんです。

こういうふうに率で定めることもいいんですけども、例えば2年目の提案のときには、自立度の向上について配慮しているかみたいな評価要素を予算のところに加えておくよみたいなことにして評価するということもありかもしれないなと思います。自分もどっちがいいか決めかねていますけれども、一律でいいのかどうかというのはちょっと思いました。

(山岡委員長) 今、坂井副委員長からお話があった民間同士の協働については、このミライカナエルで初めて始まったことですので、きちんとその成果なりはどこかで評価して、必要があれば見直しをすることが私は必要だと思っています。

ただ、今、始まって1年目が走っている最中ですから、今の段階でああだこうだというのは、ちょっとまだ言えないと思うので、3年ぐらいたったところで、私も坂井副委員長と似たように思っていて、ちょっとこれはどうだろうかという面もあるので、

そもそもステップアップの枠の中で民間同士の協働をやってくれたっていいと思うし、どちらかというと、行政の補助金という枠組みの中であれば、官民協働のほうを推進していくほうに注力したほうがいいんじゃないかとか思ったりしますし、あとは、そもそも民間同士の協働が実態として協働になっているか。そういうことも含めて、今でなくても、どこかでやったほうが良いと思っております。

(林委員) 私、資料3-2の評価項目について、少し意見を述べさせていただきたいんですが、2年間審査員をやらせていただいて、どちらかというと、いいなと思った団体が高得点になるのではなくて、減点できない団体が高得点になるという感じをすごく持ったんですね。

そのギャップは、どうやって解消できるのかちょっとわからないんですけども、その中で思ったのが3つあります。

まず4番の、先ほどの期間終了後の継続性を考えて資金面を含めるという話ですが、1つの助成金を使ってすぐに自立できる必要はないんじゃないかなと思っています。幾つかの助成金を経過して一つずつ大きくなって、最終的に自立するという方法もあると思いますし、そもそもスタートアップとかステップアップに関しては、そこまで考える力がない団体さんに対して、これは地域の助成金だから、企業とかよりも圧倒的にやさしいから、ここから挑戦してみましようという感じで結構背中を押しているものでもありますので、最初からそこまで考えられなくても、挑戦していいんじゃないかというふうに思っています。

ただし、それを考えることで、ちゃんとその事業の相手がわかる評価というものもつくっていけると思うんですね。なので、これを考えるのは伴走支援の中でやるべきことかなと思っています。伴走支援が何をやっているのか、なかなかわからないので、もちろんやられているのかもしれないですけども、本当にこの3事業をどうやってやるかだけでなく、そのゴール、どういう評価指標をつくりましようというところからその活動を考えるというのが、伴走支援であっていいのかなと思っています。

それから、話が違って3番ですが、コロナによる社会情勢の変化に対応する先駆性がある提案というのをいまだに載せるかというのが、ちょっと私はクエスチョンです。市民活動はコロナがある前からずっとあったものなので、ちょっと活動できない時期はあったけど、またそれに組みたいという思いがあって当然だと思います。もちろん、実現の方法としてコロナを無視するというのはあり得ないと思うので、5番に

コロナのことが書いてあるのはいいと思うんですが、3番ではそろそろ要らないのかなというのが率直な感想です。

最後に、ギャップを埋める方法の1つとして、この助成金のお金をいかに大切にしてくれるかというような軸をつくれないうのかなと思っています。本当にいい活動をしている団体で、既にみんなに認められているから会員数が多いとなると、それはこの助成金を使わずに、クラウドファンディングとかでやってしまったほうが早いかなと思うので、そういう団体に行くお金だったら、もうちょっと救える使い方があるんじゃないか。これは完全に私の主観ですが、思ってしまうので、そういう評価項目を追加することはできないのかということ意見を意見として述べさせていただきました。

(山岡委員長) 最後のご指摘はすごく重要なことのような気がします。こういう活動団体が使える資金が多様化してきている中で、藤沢市として、行政の資金はどこに重点的に注ぐことがふさわしいだろうかという話ですよ。パッと評価項目を変えるぐらいではなかなか難しいかもしれないですが、でも、考えていきたいですよ。

あと、コロナのことももう一回見直す必要があるところもあるかと、今ご指摘いただいて思いました。

ただ、これはきょう意見交換しただけで全て終了で、確定ということではなくて、まだ来年度の募集なので、次の10月のところまででまた修正できるということなので、きょう発言し切れなかったという方があれば、事務局のほうにご意見を寄せていただくということで聞いておりますので、会議終了時間を優先して進めさせていただきますと思います。

事務局、そのようにしてよろしいですよ。

(事務局) 結構でございます。10月16日にまた協働コースの審査会があるので、その場でお気づきなることもおありかもしれませんので、10月中にはこちらのほうにメールでお寄せいただければと存じます。よろしくお願いいたします。

(山岡委員長) それでは、以上で議題(3)「令和4年度のミライカナエル活動サポート事業について」を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題(4)「その他」

(山岡委員長) 最後に、議題(4)「その他」について、事務局よりお願いいたします。

(事務局) それでは、事務局より、次回第6回の開催予定についてお伝えいたします。

今回は10月16日、土曜日の午後1時からとなりまして、内容はミライカナエル活動サポート事業の協働コースの2次審査となります。協働コースの審査選考部会の委員の皆様には出席をお願いいたします。

改めてお伝えしますと、協働コースの審査選考部会の委員につきましては、山岡委員、坂井委員、林委員、島村委員、阿部委員、木村委員、細沼委員、西上委員、原田委員となります。なお、部会長は細沼委員、よろしくをお願いいたします。また、職務代理者としては山岡委員長をお願いしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。また、この部会の委員以外の方につきましても、当日はオブザーバーとしてご出席いただくことも可能でございます。

詳細につきましては、別途、開催通知等でご案内させていただきますので、そちらでご確認いただければと思います。

なお、会場は市役所本庁舎5階の5-1会議室を予定させていただいております。こちらにつきましても後日、開催通知等で詳細をご確認いただければと思います。

事務局からは以上でございます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉会

(山岡委員長) 以上で全ての議題が終了となります。長時間にわたり、ありがとうございました。

以上をもちまして第5回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。

午後7時32分 閉会